



2016年2月12日

各 位

会 社 名 東海カーボン株式会社
代表者名 代表取締役社長 長坂 一
(コード番号 5301 東証第1部)
問合せ先 経営企画室長 初鹿野 緑
電話番号 (03) 3746 - 5100

中期経営計画 T-2018 について

東海カーボングループは、2016年から2018年の3年間を対象とした中期経営計画T-2018を策定いたしましたのでお知らせいたします。

1. 前中期経営計画 T-2015 総括

前中期経営計画 T-2015 (対象年：2013年～2015年) では、既存市場の成長を見込んだ設備能力の増強及びフル稼働、業際の拡充、新事業創出による事業拡大を計画しておりました。しかしながら、中国を中心とするアジア市場の変化並びに最終年度における原油価格急落等に直面し、T-2015の数値目標とした売上高1,400億円、ROS11%は遺憾ながら大幅未達となりました。

また市場環境の変化のみならず、当社の問題としては、①過去の積極投資により肥大化した事業への対応遅れ ②グローバル展開に伴って構築すべき組織管理体制や人材育成システムの未整備 ③組織の硬直化及び技術に対する過信など反省すべき点が多かった3年間と認識しております。

新たな中期経営計画 T-2018 では、これら T-2015 の反省と教訓を踏まえ、初年度に「事業再構築」と「社内意識改革」の両面から構成される徹底した構造改革に取り組み、その後の成長基盤確立を目指して参ります。

2. 中期経営計画 T-2018 の基本方針

- 構造改革の実行：「事業再構築」と「社内意識改革」
- ROIC 管理導入：資本効率向上と中期計画進捗管理
- 財務健全性維持
- 成長戦略：基盤確立後の成長プラン具体化 (2017年開示予定)

3. 業績目標 (連結)

	2018年主要業績目標	(参考) 2015年実績
売上高	1,100億円	1,049億円
営業利益	90億円	41億円
ROS	8%以上	3.9%
ROIC	6%以上	2.1%

4. 基本戦略

- (1) 初年度 2016 年（フェーズ 1）を構造改革の年と位置付け、1 年間に集中してコア事業であるファインカーボン、黒鉛電極、カーボンブラックを中心に事業の最適化を推進いたします。

コア事業の最適化を推進	
① ファインカーボン	等方性黒鉛の生産能力削減と製品ラインアップの絞込み
② 黒鉛電極	一層のダウンサイズと業界再編への取り組み
③ カーボンブラック	アジア及び国内生産拠点の最適化と新市場への進出検討

- (2) 社内意識改革として、「技術の東海」の復権、コーポレート部門強化、人材活性化を推進いたします。

社内意識改革を実施	
① 「技術の東海」の復権	既存技術の底上げと新規開発力の強化 事業部間シナジーの追求 研究体制再構築 内外人材の活用
② コーポレート部門強化	経営戦略管理機能強化 適切なリスクテイクを支える環境整備
③ 人材の活性化	採用方針・研修制度の見直し 事業部門間人材交流による組織活性化促進

- (3) ROIC を経営管理指標に用い資本効率の改善と中期計画進捗管理のツールとして浸透させます。収益率の改善と合わせ、売掛債権流動化、在庫削減、固定資産圧縮、投資採算の適正化により 2018 年の ROIC 6%以上を目指します。

ROIC（投下資本利益率）管理導入	
$\frac{\text{営業利益（税引後）}}{\text{運転資本} + \text{固定資産}}$	= 6%以上（2018 年）

5. 成長戦略

2016 年で集中的に実施する構造改革（フェーズ 1）により成長基盤を固め、具体的な成長プラン（フェーズ 2）を 2017 年に公表する予定です。

以上